



簿記の全体像

使い方

- 画面をクリックするとプログラムが進んでいきます。
-  をクリックすると次のページに進みます。
-  をクリックすると前のページに戻ります。
- ページ数は右下に表示されています。

目次

1. 簿記とは
2. 貸借対照表
3. 損益計算書



今回は僕が案内するよ！

はじめて簿記に触れる人
にとっては大変かも知れな
いけど、がんばろう！

1. 簿記とは

そもそも、みんなが「簿記」という言葉をはじめて聞いたのはいつかな？

商業高校に通っている人は高校時代、それ以外だと大学や社会に出てからというのが多いんじゃないかな？

ここでは、はじめて簿記に触れる人を前提に話を進めていくことにするよ！

簿記について少し勉強している人にとってはくどい内容になってしまうかも知れないけど、確認してみてね。

それじゃ、内容に入っていくことにするよ。



1. 簿記とは

はじめての人にとっては、
「そもそも簿記ってなんなのさ？」
って感じている人も多いんじゃないかな？

では、簿記のイメージをつかむために、まず簿記の語源から探ってみよう。

ここでは、2説を紹介するよ。

1. 「帳簿記入」の略
2. 英語の「book keeping」を日本語っぽく読んだもの

そうなんだ、簿記は要するに「帳簿記入」のことなんだよ。



1. 簿記とは

みんな「帳簿記入」というと、おこづかい帳とか、家計簿とかを思い浮かべるんじゃないかな？

簿記はそれよりももうちょっと守備範囲を広くした考え方なんだ。

お金の管理はもちろん、商品や持っている土地なんかも簿記で管理するんだよ。

おおざっぱに言うと、簿記は

- ・1年間の儲けがいくら出たか
 - ・その結果財産がどれだけ増えたか
- などについて明らかにするための計算技術
ということが出来るんだ。

この技術は、トヨタみたいな大企業でも八百屋さんのような個人商店でも、基本的には変わらないんだ。



1. 簿記とは

さっき言った簿記の目的を整理すると

1. 企業の経営成績を明らかにすること
2. 企業の財政状態を明らかにすること

とまとめることが出来る。

企業は継続して活動してるから、この2つを明らかにするにはどこかで期限を引かなきゃいけないよね。

例えば、「100万円儲かった」って言っても、それが1週間で儲けたのか、1か月で儲けたのかでは意味が大きく違うのは当たり前だよね。だから、決まった期間を定める必要があるんだ。

普通は1年で区切りを付けて、1年間の経営成績とその1年の最終日の財政状態を明らかにすることになる。

ちなみに、この1年間を「**会計期間**」と言うんだ。



1. 簿記とは

たぶん、この辺で少し混乱してきてるんじゃないかな？

1. 企業の経営成績を明らかにすること
2. 企業の財政状態を明らかにすること

って言われたって、よくわかんないよね！
次はこのことについて説明するよ。



2. 損益計算書

まず

1. 企業の経営成績を明らかにすること
について説明するよ。

これは、企業が1年間でどれだけお金を使って、どれだけ儲けたかを
明らかにすることなんだ。

簡単な例を挙げてみるよ。

この1個あたりの値段は
「@60」のように表現するよ！

1年でネジを1個60円で1000個仕入れて、100円で全部売ったとする
と、

$$@100 \times 1000 - @60 \times 1000 = 40000$$

となり、この企業はこの一年間で40000円儲かったってことになる。

この経営成績を明らかにした報告書を**損益計算書**というんだ。



2. 損益計算書

ここで、損益計算書の基本的なルール＝書き方を説明するよ。

(借方)	損益計算書	(貸方)
費用 60,000		収益 100,000
当期純利益 40,000		

損益計算書の
右側(貸方)と
左側(借方)の
合計は同じ！

当期純利益＝収益－費用(当期＝その一年間)
として計算するんだ。

さっきのネジの例を思い浮かべれば、直感的に理解できるんじゃないかな？



2. 損益計算書

(借方)	損益計算書	(貸方)
費用 60,000		収益 100,000
当期純利益 40,000		

ここで登場するのが**収益**と**費用**だ。

さっきのネジの例でおおざっぱな話をすると、
収益:ネジの売上
費用:ネジの仕入
ってイメージしてみたい!



3. 貸借対照表

次に

2. 企業の財政状態を明らかにすること
について説明するよ。

これは、期末(=1年間の終わりのことだ!)における財政状態を明らかにすることなんだ。

さっきの損益計算書は「1年間でどれだけ儲けたか」ということだった。でも、「儲けたかどうかはさておいて、企業はどんな状態なのか？」ってことも、企業を見る上では重要だよな。

例えば、同じ100万円儲けたと言っても、

- ・無借金でたくさん土地をもっている会社
- ・1000万円借金している会社

のような違いは1年間の儲けを明らかにするだけではわからない。だから、儲けとは別に財政状態を明らかにしなければならないんだ。このような財政状態の報告書を**貸借対照表**と言うんだ。



3. 貸借対照表

(借方)	貸借対照表	(貸方)
資産 100,000	負債 40,000	
	資本 60,000	

ここで登場するのが、**資産**、**負債**、**資本**だ。

『急に資産だとかいわれても...』

『そもそも資産と資本って同じような言葉で、違いがわからない！』
って声が聞こえてきそうだね。

じゃあ、ここをわかりやすく説明してみよう！



3. 貸借対照表

(借方)	貸借対照表	(貸方)
資産 100,000	負債 40,000	
	資本 60,000	

資産: 将来受け取れる権利(これを債権という!)ともの
負債: 将来支払わなければならない義務(これを債務という!)
資本: 商売をはじめたときのお金と儲けの蓄積
う~ん、まだわかりにくいよね?

ここでアニメーション発動!
この←の方向は、実はお金の流れを表してるんだ!



3. 貸借対照表

(借方)	貸借対照表	(貸方)
資産 100,000	負債 40,000	
	資本 60,000	

貸方の**負債・資産**はお金の調達源泉、
借方の**資産**はそのお金をどういう状態で持っているか
を表しているんだ！

負債は他人資本、資本は自己資本と言われ、
おおざっぱに言うと負債は一時的な借金、資本は自分(達)が出した
お金と言うことが出来る。



3. 貸借対照表

(借方)	貸借対照表	(貸方)
資産 100,000	負債 40,000	
	資本 60,000	

例えば、ある会社から1万円借りて銀行に振り込んでもらったとする。そのとき、お金の調達源泉として貸方の負債が1万円増え、その1万円を預金という形で資産として保持しているってことなんだ。

つまり、貸方の負債が50,000円、借方の資産が110,000となるんだ。このへんは後に扱う「**仕訳**」という考え方を紹介した後でないとなかなか理解しがたいんだけど、とりあえず**調達源泉が貸方**で、それを**どういう形で持っているかが借方**だということは覚えておいて欲しい！



まとめ

どうだった、はじめての簿記は？
やっぱりムズカシイかな？

それでは最後に今回のまとめをしておこう。

1. 簿記とは

1年間の儲けがいくら出たか、
その結果財産がどれだけ増えたか
などについて明らかにするための計算技術

2. 損益計算書

企業が1年間でどれだけお金を使って、どれだけ儲けたかを明らかに
する報告書。ここでは収益・費用が使われる。

3. 貸借対照表

企業の期末の財政状態を明らかにする報告書。ここでは資産・負
債・資本が使われる。



終わりに

さて、今回のフラッシュはコレで終わりだ！
少しは簿記のイメージがわいたかな？

簿記は自転車に乗るのと同じで、何回も何回も体で覚えながら身につけるものだとも言われてるんだ。
だから、1回で全部わかろうとせず、最初はイメージをつかんで、だんだんと正確な知識と処理を身につけていってね。

次回は**簿記の一巡**について説明するよ。
今回とセットで一つの内容なので、あわせて何度も見るようにしてください。

それでは、がんばってください！



制作者情報

- 簿記フラッシュ-日商簿記3級
<http://boki3.source-of-information.com/>
これまで作成したフラッシュと内容を公開しています。
- ご意見・ご感想等ございましたら、
info@source-of-information.com
までお寄せ下さい。